専門研修プログラム名	宮崎県立宮崎病院精神医療センター	専門研修プログラム
基幹施設名	宮崎県立宮崎病院精神医療センター	
プログラム統括責任者	河野 次郎	

専門研修プログラムの概要	<p>専攻医は日本精神神経学会の精神科専門医制度専攻医研修マニュアルに基づいて研修を行い、研修の評価を受ける。研修内容の詳細はマニュアルに記されている通り。宮崎県立宮崎病院は500床、22診療科を擁しており、精神医療センターは35床で、コンサルテーション件数は年間600件、措置入院は年間20件を超える。救急と合併症の比重が高く、ほぼ全ての年齢層と疾患群の診断と治療を経験でき、COVID-19感染症にも対応している。宮崎大学を始め、福岡県の産業医科大学、九州大学、福岡大学、久留米大学、児童思春期専門病床を持つ国立病院機構宮崎東病院、宮崎県精神保健福祉センター、宮崎県内の18の精神科病院と連携している。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>基本的には日々の患者の診療から学ぶ。面接や診断、治療方針など、最初は指導医と話し合いながら、徐々に自立して治療を進めることができるように自ら研鑽を積む。基幹病院では、指導医には適宜相談でき、参考図書は医局や図書室にある。連携病院ではその病院の方針に従う。宮崎大学主催の週に1度のセミナーに参加することで、大学病院や他の病院の医師の研究や経験を知り、交流することができる。修正型電気痙攣療法は現時点では大学病院などの他の施設での研修が必要である。2024年中には当院でも実施可能となる見込みである。学会や研究会、研修会への参加、専門医や資格の取得を推奨する。</p>	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	<p>専攻医研修マニュアルに基づき、主要な精神疾患の診断や治療についての知識を深め、精神科特有の治療技法を学び、患者の人としての尊厳を大切にすることを養成する。</p>
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	<p>症例検討会、病棟での多職種カンファレンスの他、各種チームカンファレンスに参加し、個別の診断や治療に加え、社会的視点も含めた多面的な知識、技能を修得する。</p>
	学問的姿勢	<p>自らの治療経験、臨床研究の成果を国内の研究会や学会で発表し、論文として投稿する。図書室のほか、医中誌、メディカルオンラインが利用できる。</p>
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	<p>専攻医研修マニュアルに記された精神科医師の倫理綱領に基づき、患者との良好な関係、チーム医療、安全管理、守秘義務、精神科患者の人権や尊厳を守る立場にある医師としての社会性や倫理性等を修得する。</p>
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	<p>1年目は指導医と一緒に患者を受け持ち、面接や診断、治療の基本を学ぶ。2年目は指導医の指導の下、精神療法について深く学び、精神科救急対応経験を重ねる。3年目は指導医から自立して診療できるようにする。</p>
	研修施設群と研修プログラム	<p>2年目または3年目に連携施設の中から研修先を選択し、少なくとも1年間の研修を行う。県内の民間の精神科病院または連携する大学での研修となる。</p>
	地域医療について	<p>各地域の精神科病院では、自ずと地域に根ざした精神科医療を学ぶことができる。必ずしも入院に頼らず、地域で支える方法を学ぶ。他の施設との連携を異なる立場から経験することも重要である。</p>

専門研修の評価	研修の年度毎の終了時に、研修目標の達成度について専攻医と指導医が確認し、指導医が評価を行う。3ヵ月または6ヵ月目に途中経過を確認する。医師以外の職種による評価も必ず行い、専攻医から指導医への評価が専攻医の不利にならないようにする。	
修了判定	各研修施設の指導医からの評価を得て、総合的に判定し、統括責任者から通知される。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	1年に1度は会合を開き、専攻医の健康状態、研修目標の達成状況、プログラムの修正等について意見を交換する。
	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に準拠する。
	専門研修プログラムの改善	基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会において、定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	基幹病院の統括責任者（宮崎県立宮崎病院精神医療センター長）と病院長が、面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用・最終的な修了の適否を判断する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	病気・産休/育休によるプログラムの中断、プログラムの移動、途中のプログラム外の研修等については、適宜、専門研修管理委員会に報告し、専攻医の不利益にならないように配慮する。原則として専攻医の健康と家庭生活を優先する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	プログラム管理委員会が主導し、各施設における研修状況を評価する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	河野次郎（宮崎県立宮崎病院精神医療センター長）、並木薫（同医長）、直野久雄（同医長）、松尾倫子（同医長）	
Subspecialty領域との連続性	日本老年精神医学会専門医指導医、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定指導医がいる。日本精神科救急学会専門医にも対応予定。連携する病院により更に幅広いSubspecialty領域を学ぶことも可能。	